

□ 主な内容

【COP22、CMA1、CMP 12 の結果が公表されました！】

モロッコ・マラケシュで 11 月 7 日 (月) から 11 月 18 日 (金) にかけて開催された COP22、CMA1、CMP 12 についての結果が公表されました。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ch/page3_001886.html

<http://www.env.go.jp/press/103279.html>

【第 33 回 EST 創発セミナー〔北海道〕の参加者募集中！】

12 月 19 日 (月) に札幌で第 33 回 EST 創発セミナー〔北海道〕を開催します。皆様からのご参加をお待ちしています。

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu47.html>

□ 目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 124 回)

●「『スイスモビリティ』の北海道への導入」

【一般社団法人北海道開発技術センター 地域政策研究所長 原文宏】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 124 回)

●「持続可能な MM 教育から始める EST そして COOL CHOICE 教育」

【兵庫県 川西市 都市政策部都市政策室 中津留 幸紀】

3. ニュース／トピック

●国連気候変動枠組条約第 22 回締約国会議 (COP22)、パリ協定第 1 回締約国会合 (CMA1) 及び京都議定書第 12 回締約国会合 (CMP 12) の結果について【外務省、環境省】

●11 月エコドライブ推進月間について【国土交通省、経済産業省、警察庁、環境省】

●「地域交通グリーン化事業」の公募について【国土交通省】

●高速バス&カーシェアリング社会実験の開始について【国土交通省】

●平成 28 年度地域連携・低炭素水素技術実証事業の公募について【環境省】

●平成 28 年度九州運輸局環境保全及び交通バリアフリー等関係表彰について【九州運輸局】

●「平成 28 年度エコドライブ活動コンクール」の結果発表について【エコモ財団】

●歩くまち・京都レールきっぷの発売について【京都市交通局】

●みえエコ通勤デーの制度の改正について【三重県】

- 超小型モビリティによる周遊観光実証事業について【岐阜県】
- 電気自動車・プラグインハイブリッド車の利用者への優待について【静岡県】
- 松江市自転車シェアリング実証事業の実施について【松江市】
- IoTを活用した自転車シェアリング事業参入について【ソフトバンク株式会社】
- バス駐車場への「タイムズ バス予約サービス」の導入について【タイムズ 24 株式会社】
- カリフォルニア州で電気自動車実証を開始【国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構】
- 交通部門における脱炭素化実現シナリオに関する研究結果について【ドイツ連邦環境省】

4. イベント情報

- 第 33 回 EST 創発セミナー〔北海道〕【2016/12/19】
- 京都府・エコまちフェスタ 2016【2016/11/26】
- 平成 28 年度地域公共交通活性化シンポジウム in 関西【2016/12/2】
- エコプロ 2016(第 18 回)【2016/12/8-10】
- 第 7 回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉～つながろう 広がろう エコの環～【2016/12/10】
- 京都環境フェスティバル 2016【2016/12/10,11】
- みえ環境フェア 2016【2016 /12 /11】
- 国際興業バスまつり 2016【2016/12/11】
- 第 15 回グリーン物流パートナーシップ会議【2016/12/14】
- 千葉・エコドライブセミナー【2017/2/8】

5. その他

- EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 124 回)

●「『スイスマビリティ』の北海道への導入」

【一般社団法人北海道開発技術センター 地域政策研究所長 原文宏】

スイスでは、人力で移動するハイキング、サイクリング、マウンテンバイク、カヌー、インラインスケートなどのスポーツアクティビティと公共交通機関を自由に組み合わせて楽しむ、新しい旅のスタイルを「スイスマビリティ」と称して、スローな交通を観光産業として促進するプロジェクトが実施されています。スイス政府観光局によれば、スイスマビリティによって、年間 330 億円～550 億円程度(1スイスフラン=110 円)の経済効果があると推計しています。

今年の 9 月に現地調査を行いました。各アクティビティと公共交通、物流の連携システムがとても良くできていることに感心しました。

スイスマビリティのコースは、総延長 20000km におよびますが、大きく2つに分かれています。日本でいう「県」に相当する行政区をスイスでは「カントン」といいます。複数のカントンを通るルートは「ナショナルルート」、主にカントン内で延長 45km 以下のルートは「リージョナルルート」としています。各ルートには道路のようにルート番号が付与され、ルートに沿ってルート番号と各アクティビティのピクトグラムで表現された統一標識が、民有地を含めてきめ細かく設置されています。

実際に「ルート 5」を 50km ほどサイクリングしてみました。全く迷うことなく、途中の風景を楽しみながら、目的地に到着することができました。ですから、設置されている標識の枚数はおびただしい数です。でも、サイズが小さくデザインがシンプルなこと、民家の塀、畑の柵や倉庫の壁など既存施設にサイクリストの目線の高さぐらいに、張るように設置されている所が多く、景観的な阻害要素とはなっていません。

サイクリングの出発地までは、スイス鉄道(SBB)での移動でしたが、車中にも駅構内にも自転車を持った多くのサイクリストを見ました。レンタサイクルは、降りた鉄道駅で切符を買うように自転車を借りることができますし、宿泊地の駅で返すことができます。翌日は、朝、荷物を出発地の鉄道駅から別送して次の宿泊地の駅止めにし、ウォーキングやカヌーを体験して最後は鉄道で宿泊地駅に着くと、駅で荷物を受け取ることができました。

アクティビティと公共交通のシームレスな転換と移動、さらに荷物の即日配送サービスは、スポーツアクティビティを観光資源化する場合には欠かせないインフラであることを再認識しましたが、先を行くスイスの現状を見て、北海道でどのように作り上げていくか、いささか途方にくれた気持ちになりました。

現在、我が国では、長野県も導入に向けた取り組みを行っています。北海道では、当センターが中心になって研究会を設置して、道北地域をモデル地域として実証を行いながら、仕組みづくりに取り組んでいます。

スイスの国土面積は日本の九州ぐらいですが、外国人だけで年間 900 万人超の観光客がおとずれています。陸続きと島国という地理的条件の違いは大きいとは思いますが、北海道

は昨年はじめて 200 万人を超えた程度ですので、まだまだ増加の余地はありそうです。

ただし、「数」を追うのではなく、そろそろ観光の質に重きを置くべきだと考えており、観光客の満足度、リピート率、一人当たり観光消費額などを確認しながら、少しずつ北海道らしいスィモビリティを具現化するための努力を続けている所です。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 124 回)

●「持続可能な MM 教育から始める EST そして COOL CHOICE 教育」

【兵庫県 川西市 都市政策部都市政策室 中津留 幸紀】

川西市の MM(モビリティ・マネジメント)は、平成 14 年度から取り組んでいます。平成 18 年度からは、愛媛大学大学院(前:大阪大学大学院)松村暢彦教授の総合プロデュースにより、学識者、公共交通事業者と行政が協働し、小学校での MM 教育に取り組んでおり、関係者の縁は現在も広がりを見せています。

本市には、昭和 40 年代に開発された人口 1 万人程度の戸建専用ニュータウンが点在しており、中には高齢化率が 40%を超え、地域内の病院や店舗は閉鎖され、まちの活性化が課題となっている地域もあります。そこで、第 5 次川西市総合計画及び川西市公共交通基本計画(かわにし交通ピースプラン)等の行政計画に MM を位置づけ「こころに残る楽しい交通環境まちづくり」をキーワードに、住民主体で四季折々のイベント等を CO₂ 削減活動等に繋げて実施しました。その結果、地域のバス利用者は V 字回復を示し、平成 27 年度は平成 24 年度に比べて約 1.45 倍に増加しています。

また、小学校の授業で行う MM 教育は、各学年の教諭とコミュニケーションを図り、松村教授のアドバイスをいただきながら、多岐に渡り実施しています。食育に関連して実施する場合は、川西市産の農産物や兵庫県産の魚を使い、地産地消の実践教育にも繋げています。さらに、本市の MM 教育は「いろいろな事から相手の気持ちになって自分はどのような事ができるかを考えて行動できるように」「次世代を担う子どもたちに公共交通まちづくりについてしっかり考えて行動できるように」という願いを込めて実施しています。MM 教育を実施し 4～6 年後(高校生等)の追跡アンケート調査では、MM 教育の受講者は「まちづくりや公共交通の取組を手伝いたい」の項目で、未受講の生徒と比べると 1 割程度高く有意差があり、MM 教育は次世代を担う子ども達に、持続可能な交通まちづくりの実現が期待出来る施策と考えています。

そして、今年度より国民運動である「COOL CHOICE」を MM 教育と合わせて「COOL CHOICE 教育」として取り組んでいます。

このように、学識者・公共交通事業者そして行政の協働による、MM 及び MM 教育は、持続可能な交通の実現に向けて大きな効果が得られる可能性を秘めた施策と考えています。

<http://www.city.kawanishi.hyogo.jp/machi/mobilitymanagement.html>

3. ニュース／トピック

- 国連気候変動枠組条約第 22 回締約国会議(COP22)、パリ協定第 1 回締約国会合(CMA1)及び京都議定書第 12 回締約国会合(CMP 12)の結果について【外務省、環境省】

モロッコ・マラケシュで 11 月 7 日(月)から 11 月 18 日(金)にかけて開催された国連気候変動枠組条約第 22 回締約国会議(COP22)、パリ協定第 1 回締約国会合(CMA1)及び京都議定書第 12 回締約国会合(CMP 12)についての結果が外務省、環境省のホームページに公表されました。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ch/page3_001886.html

<http://www.env.go.jp/press/103279.html>

- 11 月エコドライブ推進月間について【国土交通省、経済産業省、警察庁、環境省】

国土交通省、経済産業省、警察庁、及び環境省では、行楽シーズンであり自動車に乗る機会が多くなる 11 月を「エコドライブ推進月間」とし、シンポジウムの開催や全国各地でのイベント等を連携して推進し、積極的な広報を行うこととしています。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000135.html

- 「地域交通グリーン化事業」の公募について【国土交通省】

国土交通省では、電気自動車バス・タクシー・トラック、燃料電池自動車バス・タクシー及び超小型モビリティの導入を支援する「地域交通グリーン化事業」の平成 28 年度第 3 回公募を実施しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000174.html

- 高速バス&カーシェアリング社会実験の開始について【国土交通省】

国土交通省では、高速バス停周辺の駐車場にカーシェアリング車両を配備し、高速バスとカーシェアリングの連携を強化させることで、高速バス利用者の行動圏の拡大による観光振興や地域活性化の可能性を検証する社会実験を浜松インター駐車場で開始しています。

http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000766.html

- 平成 28 年度地域連携・低炭素水素技術実証事業の公募について【環境省】

環境省では、水素の低炭素化と本格的な利活用を通じて中長期的な地球温暖化対策を推進することを目的とし、燃料電池や燃料電池自動車等へ利用するまでの水素サプライチェーン実証の新規事業の公募を開始しました。公募期間は 2016 年 12 月 2 日までです。

<http://www.env.go.jp/press/103204.html>

●平成 28 年度九州運輸局環境保全及び交通バリアフリー等関係表彰について【九州運輸局】

九州運輸局では、所管する陸上・海上交通等の分野における環境負荷の低減やエコ通勤への転換など、環境保全及び交通バリアフリーの活動に顕著な功績があり、他の模範となるにふさわしい事業者等を顕彰しており、本年度は環境保全部門において 4 団体の表彰を行いました。

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/2016-1109-1359-4-kankyobuturyu.htm>

●「平成 28 年度エコドライブ活動コンクール」の結果発表について【エコモ財団】

エコモ財団では、地球温暖化対策の CO₂排出抑制策として国民の誰もが手軽に実施できるエコドライブを推進しており、今年度も「エコドライブ活動コンクール」を開催し、その結果を公開しました。

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecodrive/ecodrive_top.html

●歩くまち・京都レールきっぷの発売について【京都市交通局】

京都市交通局では、京都市内の主な路線が乗り放題となり、施設等での料金割引などの優待もある便利でお得な乗車券である歩くまち・京都レールきっぷを発売します。発売・有効期間は平成 28 年 12 月 9 日(金)～平成 29 年 3 月 20 日(月)です。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/page/0000200398.html>

●みえエコ通勤デーの制度の改正について【三重県】

三重県では、みえエコ通勤デーの利用区間の制限を撤廃し、通勤経路以外の区間であっても、パスを提示するとバス運賃が半額になるよう制度を改正しました。また、改正前は 4 週間かかっていたみえエコ通勤パスの発行期間が約 2 週間に短縮されました。

<http://www.pref.mie.lg.jp/KOTSU/HP/m0009200019.htm>

●超小型モビリティによる周遊観光実証事業について【岐阜県】

岐阜県では、東海地方では初となる 2 人乗り超小型モビリティによる新たな交通サービスの実証事業を実施することを発表しました。実施期間は平成 28 年 11 月 20 日(日)～12 月 27 日(火)です。

<http://www.nagatetsu.co.jp/>

●電気自動車・プラグインハイブリッド車の利用者への優待について【静岡県】

静岡県では、電気自動車(EV)・プラグインハイブリッド車(PHV)の利用を促進し、環境に優しいエコリゾートとしての魅力を発信するため、EV・PHVを利用して来訪された方に、プレゼントや料金割引などを提供する「EV・PHV 利用者への優待」やEVレンタカーを通常料金の半額で利用できる「EV レンタカー利用促進」を行います。実施期間は11月19日(土)～3月31日(金)までです。

<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-150/izueco/yuutai.html>

●松江市自転車シェアリング実証事業の実施について【松江市】

松江市では、自転車利用の拡大策を検討、交通渋滞の緩和や公共交通の利用促進、車に依存した生活スタイルからの転換を図っていくことを目指して、自転車シェアリング実証実験を実施しています。実施期間は平成28年11月10日(木)～12月9日(金)です。

<http://www1.city.matsue.shimane.jp/sumai/koutsu/jitensya/jitensya.html>

●IoTを活用した自転車シェアリング事業参入について【ソフトバンク株式会社】

ソフトバンク株式会社は2016年11月11日より自転車シェアリングシステム「HELLO CYCLING」の提供開始し、IoTを活用した自転車シェアリング事業に参入することを発表しました。

http://www.softbank.jp/corp/group/sbm/news/press/2016/20161110_01/

●バス駐車場への「タイムズ バス予約サービス」の導入について【タイムズ24株式会社】

タイムズ24株式会社は、観光バスに起因する交通渋滞の解消を目的とする台東区の「観光バス予約システム構築及び駐車場・乗降場所管理運営業務」を受託し、バス駐車場の予約システムと誘導を行うガイドスタッフが連動したオペレーションを構築したことを発表しました。

<http://www.times24.co.jp/news/2016/11/20161121-1.html>

●カリフォルニア州で電気自動車実証を開始【国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構】

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構は、日産自動車株式会社、Nissan North America, Inc.および兼松株式会社とともに、米カリフォルニア州北部都市圏で電気自動車の行動範囲拡大を目的とした実証事業「DRIVE the ARC」を開始したことを発表しました。

http://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_100671.html

●交通部門における脱炭素化実現シナリオに関する研究結果について【ドイツ連邦環境省】

ドイツ連邦環境省は、研究プロジェクトの結果として、交通部門における効率化・電動化・再生可能エネルギーの導入を進めることにより、成長と生活の質への制限なく、交通部門における温室効果ガスの完全な相殺化を実現することができるとするシナリオを公表しました。

<http://www.bmub.bund.de/presse/pressemitteilungen/pm/artikel/neue-optionen-fuer-klimaneutralen-verkehr/>

4. イベント情報

● 第 33 回 EST 創発セミナー〔北海道〕

日時:2016 年 12 月 19 日(月)13:30~16:45

場所:アスティ 45ACU12 階「中研修室 1206」

主催:北海道運輸局、EST普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu47.html>

● 京都府・エコまちフェスタ 2016

日時:2016 年 11 月 26 日(土)9:00~16:30

場所:みやこめっせ

主催:京都市

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000206829.html>

● 平成 28 年度地域公共交通活性化シンポジウム in 関西

日時:2016 年 12 月 2 日(金)13:00~17:30

場所:テイジンホール

主催:近畿運輸局

<http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/press/2016-1101-1339-25.html>

● エコプロ 2016(第 18 回)

日時:(1 日目)2016 年 12 月 8 日(木)10:00~18:00

(2 日目)2016 年 12 月 9 日(金)10:00~18:00

(3 日目)2016 年 12 月 10 日(土)10:00~17:00

場所:東京ビッグサイト 東ホール

主催:一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/2016/>

● 第 7 回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉~つながろう 広がろう エコの環~

日時:2016 年 12 月 10 日(土)10:00~16:30

場所:埼玉大学 全学講義棟 1 号館

主催:第 7 回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉実行委員会

http://www.jccca.org/event_info/2016/12101630.html

● 京都環境フェスティバル 2016

日時:2016 年 12 月 10 日(土)~11 日(日)10:00~16:00

場所:京都府総合見本市会館

主催: 京都環境フェスティバル実行委員会

<http://www.pref.kyoto.jp/kankyofes/>

● みえ環境フェア 2016

日時: 2016年12月11日(日)10:00~15:00

場所: メッセウイングみえ

主催: 三重県地球温暖化防止活動推進センター

<http://www.mec.or.jp/ondan/info/>

● 国際興業バスまつり 2016

日時: 2016年12月11日(日)10:00~15:00

場所: 国際興業バス「さいたま東営業所」

主催: 国際興業株式会社

http://5931bus.com/news_details/id=2225

● 第15回グリーン物流パートナーシップ会議

日時: 2016年12月14日(水)14:00~16:30

場所: 日経カンファレンスルーム「日経ビル 6階」

主催: 国土交通省、経済産業省、日本物流団体連合会、
日本ロジスティクスシステム協会

http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000283.html

● 千葉・エコドライブセミナー

日時: 2017年2月8日 13:30~16:30

場所: 千葉県自治会館

主催: 九都県市首脳会議・千葉県・千葉市

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/press/2016/ecodrive-seminar.html>

5. その他

- EST パートナースHIP会員制度に参加する団体を募集しています！
2013年7月16日から募集を開始し、37団体が参加しています。
会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。
http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
<https://twitter.com/officeEST>
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
<http://www.green-m.jp/>
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
配信申込はこちらから
<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html
- 記事募集中！
本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。
EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomom.or.jp (担当: 熊井)

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>